



江戸の文人墨客も、幕末の志士も、 タイムスリッパーとして あらわれそうです。

江戸の吉原、京の島原、長崎の丸山。
花街にはどこも、ドラマチックな物語がありました。
なかでも、海外との窓口であった長崎には、情報と交友を求める人たちが集まり、
丸山では夜な夜な新しい時代への熱い談義が行われていたとか。
当時の妓楼はいまでも、料亭としてそのまま残されています。
芸妓さんたちの姿も日常に溶けこんでいます。
“いま”と“むかし”が交差する町、丸山。
あの角を曲がったら、ほら、時空を超えたなにかが起ころうで…。

花街文化が残る町 丸山

